議 長 確認印	
------------	--

予算決算常任委員会会議録

1 開会の日時 閉 会	令和6年11月28日 10:00 令和6年11月28日 14:36 ※10:00~11:02 11:15~11:56 (説明終了) 13:10~14:36 (質疑 13:10~、説明員退席 14:30)
2 場 所	議場
3 出席した委員	七宮広樹、吉田克則、堀江祐司、金澤太郎、菊地哲也、鈴木元久、吉村守広、吉田広明、青砥與藏、小林達信 (遅参)、藤田一男、下重義人
4 欠席した委員	なし
5 出席要求者	なし
6 職務出席者	議長、議会事務局長、書記
7 説 明 員	町長、教育長、総務課長、町民課長、健康福祉課長、農林推進課長、まち振興課長、まち整備課長、生活環境課長、会計管理者、学校教育課長、生涯学習課長、はなわこども園長、選挙管理委員会書記長 (併)、農業委員会事務局長、財政係長
8 付 議 事 件	第1 埴町振興計画案について
9 議事の経過	<p>副委員長 (吉田克則委員) 開会 委員長 (七宮広樹委員) あいさつ 宮田秀利町長あいさつ 第1 埴町振興計画案について 委員長: (1) 財政状況及び財政見通しについて、総務課長へ説明を求める。 (総務課長が資料に基づき説明) 委員長: 質疑はあるか。 吉田克則副委員長: 長期総合計画において変更になる部分はあるのか。 総務課長: 長期総合計画は、2022年から2031年までの10年間の計画である。5年ごとに内容を見直すことになっている。新しい事業については、施策に合ったところに組み込んでいく。 委員長: 他ないので、(2) 概算事業計画について説明を求める。 (所管課等の長が資料の説明) (説明終了後) 委員長: 質疑はあるか。 金澤太郎委員: 12 ページ・4 番目。7 年度予算で埴小学校電気錠とあるが、どういった形でつけるのか、外部からの侵入防止なのか。どのような計画なのか伺う。あと、</p>

13 ページ・3 番、教育指導員配置事業。教育指導員として 1 名配置されていて、各小学校、中学校等を回っていくとは思いますが、こういったところまで教育指導されているのか伺う。

学校教育課長：埴小学校の電気錠は、職員玄関に設置を予定している。現在、笹原小学校、埴中学校は来客者用の玄関のところには、電気錠がついていて中からスイッチで上げるという形。埴小も、不審者侵防止目的で、来客用の玄関については内部からスイッチで玄関を開ける。今現在開け放しになっているので、第三者が入ってきて気づかないケースがあるため、不審者の侵入防止を目的として今回設置をする。児童用の玄関は、今までどおりアナログの施錠で対応していくことで考えている。次に、教育指導員については、適応指導教室・あすなろ教室にいる職員のことである。現在は、公民館の学校教育課があった部屋の一部を利用し、現在、中学生 4 名に不登校の児童生徒の学習指導という形で、教員資格を持った職員が対応している。

金澤太郎委員：14 ページ・5 番。LED 照明設備のリースだが、買取リースにするのかどうか。リース料にしてしまうと、器具代再リースということが発生し、永続的にどん費用がかかる。どのように計画しているのか伺う。同じページの一番下、B&G 海洋センターの改築工事。屋根・壁設置とあるが、内部が今までほど高温にならないような状況にする工事なのかどうか。

生涯学習課長：公民館 LED 照明設備のリースは、照明設備のリース料を 10 年契約で考えている。期間終了後は、無償で受け取ることができるという内容である。

プールの改修工事については、B&G 海洋センターの上屋シートが劣化しているため、取り替え工事として毎年 300 万円計上してきていた。B&G 財団からの助成を受けるため、一括で工事することが条件になっており、屋根・壁設置の設置ということで計上している。工事の内容については、今後検討することで考えている。

金澤太郎委員：プールの件だが、テント式が変わるか変わらないかということを含めて・・・ただ 3000 万円で本当に体育館用のものができるかという点と多分できないだろうと思っている。意見を言う場ではないのだろうが、テント式から体育館式等々に変えて方が、実際利用する方の快適性も上がると思っている。ご一考いただきたいと思う。答弁は結構である。

次に、まち町振興課になるが 17 ページ・2 (1) の 2 番。わくわく地方生活実現政策における移住支援金。常々県でやっている移住者の募集等々含めて、東京に出向いて活動しているということは伺っていたが、来場されている方の反応とかそういったものを中間であるが伺う。

まち振興課長：今年も、有楽町で行われているふるさと回帰センターで実施されているフェアに埴町で参加をしてきた。去年は 4 人の方が、埴町のブースで埴町はどんなところかというような説明を聞いていただいた。関心があった方は家族でこちらに来て、中古の住宅に住んで、ゆっくり過ごしたいという方がいた。埴町との結びつきは今まではなかったが、住宅を買いいたいという方は埴町に来て、現地を見てい

ただいたところであったが縁がなかった。今年については、埴町のブースに9名の方にお越しいただいた。そのうち1名の方が、林業関係に携わりたいというお話があったので、ただいま林業の地域おこし協力隊を募集しているので、連絡先をお聞きし、今後つなげていきたいと考えているところである。

藤田一男委員：14ページ、先ほど金澤委員からも出たが、公民館・地区館のLED照明リース料。先ほどの説明では、10年間リース料を払うと現物が無償で譲り受けられるということだが、毎年100万ずつ上がっている。10年後には1年1200万ぐらいかかる計算になる。リースよりも最初から器具を購入して取り付けた方が安いのではないかと思うが。次に、18ページのデマンド交通事業。軽自動車2台で、町内を回るとのことだが、軽自動車を新しく買う費用なのかどうか。それと、運転手を含めた予算なのか。役場の公用車を利用するのかどうか伺う。

生涯学習課長：公民館本館の他に地区館・分館のLED化を進める計画であり、毎年1館ずつ増やしていくということである。6年度に埴町公民館本館のリース開始となっている。7年度に笹原地区館、8年度に高城地区館を予定。9年度以降は未定である。工事価格とリース価格と比較すると、大体10分の4の額で、そのLED機器が最終的には受け取るということになっている。100万円ずつ増えているのは、本館以外に分館・地区館があるということで、そちらの方もLED化を進めていく。工事でやるよりはリースでやった方が安価で済むということである。

まち振興課長：デマンド交通だが、この経費の計上については、役場の公用車・軽自動車を当面は考えているところである。金額については、燃料代が12,000円の12ヶ月、2台で288,000円。運転手は、今のところシルバー人材センターも視野に入れているが、ライドシェアも視野に入れ、まだ確定ではないがシルバーを頼んだ場合、シルバーと同等の人を頼んだ場合で、1,250円の8時間掛ける20日、12ヶ月で240万円の積算、合わせて280万円の計上としている。

藤田一男委員：14ページ、地区館・分館エアコン設置だが、利用人数が多いところから設置ということだが順番はどうなっているか。

生涯学習課長：順番については、選挙会場や施設の利用回数の多い公民館から進めていく計画であるが、7年度は笹原と高城地区館を予定している。8年度は台宿・那倉・片貝分館を予定している。9年度以降は未定である。

吉田広明委員：10ページ・13番目の高齢者基幹施設整備事業。どういう基幹施設を考えているのか。具体的な内容を教えていただきたい。

健康福祉課長：具体的にはまだこれから検討ということになる、現在の構想では、社会福祉協議会、シルバー人材センターの事務局と、高齢者の体力向上、健康維持相談窓口、簡単な器具とか置けるホールとか。高齢者支援機能を十分に備えた形での高齢者支援基幹施設、当然ケアハウスも含めて検討していきたいと思っている。

吉田広明委員：ケアハウスということであれば、老人ホームまではいかなくてもその一歩手前ぐらいの宿泊できるような施設という認識でよろしいか。

健康福祉課長：その辺も含めてこれから検討していくということである。

藤田一男委員：5 ページ・ふくしま森林再生事業。令和 8 年度以降の見通しは。

12 ページの 6 番、小学校の代替バス通学定期券の交付。現在、学区外から多分通っている児童がいると思う。そういう児童へも定期券の補助金を出しているのかどうか。

農林推進課長：ふくしま森林再生事業について、令和 3 年度より計画変更ということで、山の空間線量が 0.1 マイクロシーベルトパーアワー以上のところしか実施できないという状況が続き、その時点で計画が 7 年度で終了という状況である。今現在県、国に要望を出している最中であるが、その回答についてはまだ来ていない。令和 8 年度以降何もないのかという話だが、森林環境譲与税の事業を、金額的には少なくなることになるが、2,800 万円の事業費を計上しながらやっていきたいと考えている。

学校教育課長：児童生徒等の通学支援事業ということで、代替バスの通学費補助をしているところだが、こちらはスクールバス以外で福島交通を利用しているお子さんたちに対して補助をしている。夏休みや冬休みの部活動に利用するときも、事業は違うが、そういう方たちにもバスを利用する場合には補助金を出している。基本的には、定期券という形でスクールバスを利用スクールバス以外の福島交通を利用させていただくという形で、福島交通からそういう発行してもらった形の料金を実情に応じて補助金として交付している。学区外の児童に対しては、家庭の都合により、そちらの学校に通うということになっているので、基本的には通学に関する補填補助等はしていない。

藤田一男委員：学校の学区について。教育長も分かっていると思うが、今年あたりも塙小に入学した子ども、笹原小学校の目の前の子どもが塙小に行っている。ちゃんと家には留守番する人もいる。何でそれを認めるのかなと思うが。ここからこの地区は、この学校に行かなくてはならないというようなことはできないのか。確かに夫婦で勤めていて、家が空っぽで学校から帰ってきて誰もいないというのはある程度は仕方ないところがあるが、家で留守番がいて、学校が目の前にあり、敷地内から何秒、1 分で行けるような話を聞いている。そういうのを認めるのはちょっとおかしいと思う。そういうのをちゃんとはっきりできないのかどうか伺う。笹原の人は不思議に思っている。

学校教育課長：学区外からの例えば塙小学校から笹原小学校、笹原小学校から塙小学校、町外から塙町の学校に通うお子さん、それぞれの家庭の事情において申請があり、それに基づいて許可をしている。それぞれの家庭の事情に応じてなので、なかなかこちらから駄目です、拒絶することが難しいという実情もあるのでその辺はご了承いただきたいと思う。

藤田一男委員：家庭の事情、確かに家庭からの説明だが、教育委員会でも調べればこの家庭はどういう家族構成かなというのを分かるはず。以前はきちんと学区があったが、今はあつてないようなところが見受けられる。ただ申請だけで認めているのか、本当に家庭の事情で認めざるをえないっていうところまで見ているのか。

学校教育課長：もちろん内容を審査した上で許可をしているが、町内であれば、埜町教育委員会だけの話で済むので私どもだけで検討しているところだが、町外からの場合だと・・・

(町外の話は不要との声あり)

町内の話だが、個人・家庭の事情、いわゆる家の事情だけではなくてお子さんの事情とか、いろいろな実情があった上で申請されてくる方が多いので、一概に決められるものではないので、その辺は難しいとは思いますが、今のところ申請したのに対して内部で検討した上で許可するという形で進めている。

委員長：藤田一男委員に申し上げる。振興計画のところから少しずれている。

その他あるか。

青砥與蔵委員：17 ページ・3 番目。空家対策事業。リフォーム、解体、そんなところの話になるのかなと思うが、いずれにしても、空き家で解体の方向になっている建物、もう壊すしかないというのは、100 年前のやつだったりして、名義が先々代ぐらいになっている。その状況の中で、遺産相続権が成立しているかどうかなんていう騒ぎになると、これ壊したいので、40 万いただければ、私 100 万つけて 150 万でこれを壊しますという話もあるが、なかなかそこまで至らないということを知ったもので。事情はいろいろあっても、壊したいという意思のある人には、ぜひともこの解体事業っていうのを進められるように段取りしてもらいたい。

まち振興課長：メインが完全に相続してない方がご相談に参られたケースがある。そのときには、その人が壊すことに、ご兄弟の方とか異議がないかというのを確認していただき「宣誓書」これをこの物件を補助で壊したことに関する相続の争いがないものですというような、宣誓書をつけていただくような形で補助を出すように執り行いたいと思っている。

青砥與蔵委員：遺産相続権がどうこうになると、実際はもうそのつき合いもなくなっているという問題も出てくる。第三者という言い方ですと、区長さんとか、隣の人とか、その人らが立ち会ってもらって、もう壊したいって本人が言って、自分のお金を負担金をつけてやりたいって言っているならば、それはいいですよっていう何かシステムを構築した方がいい。この処理ができないとできませんなんていう話をしていたら、いつになってもできない。少し弾力のあるやり方を考えてほしい。

まち振興課：そのようなところで検討して参りたいと思う。

吉田広明委員：13 ページ・不登校の子供たちへのサポートの推進ということで、1 ヶ月ぐらい前だと思うが、全国の不登校の人数ちょっと数字の把握は押さえていないが、福島県も新聞等で公表されている。埜町もいろんなケアをしているとは思いますが、その実態、なかなか改善に向かうのは難しいとは思いますが、現状の認識として厳しくなっているのか、そこらのところをお聞きする。

学校教育課長：不登校の実態どのような形になってきているかということだと思うが、実際ここ何年か、あすなる教室・適応指導教室に来ているお子さんがそれほど人数変わらない状態、同じ子が来ているということもあるが、推移しているところであ

る。それ以外で不登校となっているお子さん、やはり何人かいらっしゃるということで、増えているというほど増えてもいないが、浮き沈みが年毎にある。不登校だった子がまた復活して学校に通えるようになったケースもあるし、休みがちなながらも学校に通っているケースもある。それほど大きな変化は今のところないと考えている。

委員長：他にあるか。

菊地哲也委員：17 ページ・デジタル田園都市国家構想交付金事業。地域経済活性化事業業務委託。国から 2,500 万円来ていて、そういう事業を認められたことだと思うが、この業務委託の委託先はどこか。先ほどの説明では、宿泊・観光ということであったが、湯遊ランドを中心に、町内の経済活性化を考えているのか。町内の、例えば商店街とか、そういうのも含まれての事業なのか伺う。

18 ページ・デマンド交通。中山間地から町内に、役場とか厚生病院に来る方が一番困っていると思う。今回、タクシー助成金がかなり増えているが、町内・平らなところよりも中山間、ライドシェアは考えていくやり方と思うが、その中山間地をもう少し考えていった方がいいのではないかとということでお聞きする。

まち振興課長：デジタル田園都市国家構想交付金だが、埴町に観光客が来てくれている、もしくは埴町の知名度が低いっていうのが近年の課題。あと移住定住をするにあたって、観光で来たこともないところに定住に来るのかという問題もある。埴に訪れた人たちの中から、定住してもらえればそれはなお良いこと、埴の特産品も含めて、埴町の魅力を発信する事業として、このほかにも魅力発信事業も行ってきたが、こんなものおいしいですよ、こんなものいいものがありますよ、こんな観光名所もありますよ、こんなところもありますよというのを PR していく中で、地域経済の活性化というのは湯遊ランドを核というよりも、埴に観光客が来ていただいて、できれば泊まっていただいて、泊まった時に食べたもの・飲んだものを埴で購入していただければ、経済が発展する活性化になる。あとは埴に泊まる人が増えて、埴で観光する人が増えてきた時に、それに関係して、商店街の方で、例えばお土産のお菓子、例えば農産物のお土産を買ってくれるような商品を開発したり、製造したりというのが、今までよりも増えてもらいたいところである。KPI としては、経済効果の指標として、道の駅の売り上げ、湯遊ランドの売り上げ、初年度は 5%、前年度に比べて次年度は 10% 増を目指すという KPI を掲げて事業を進めているところである。埴町に来て泊まっていただくのに、まず埴を知ってもらうために、今イベントを、この間のハロウィンのイベントを行い一番近いのではボジョレーのタベというのを、まずそのイベントをやってこういうことをやっているというようなチラシ・ニュースを、近隣の町村を含め関東圏も、あと湯遊ランドに泊まったことがあるお客様に対してダイレクトメール、あとネット上でもお知らせをして、埴町では今こういう事業で取り組んでいる、ぜひ関心を持っていただきたいということでやっている。会場については、今のところ、大規模なそういったところに対応できるのが、この 2 回のイベントは湯遊ランドが駐車場もあり、いろんな

人が来て対応できるというところで、会場は選定したところである。今後の展開については、埴町全体を売り込んでいくというところなので、今後ともいろんな方法を考えていきたいと思っている。この委託先だが、埴町観光協会と一般財団法人宿泊施設活性化機構、この二つでプランナー、こんなイベントをやしましょう、料理であれば、フードプロデューサーがこんな料理で売り込みましょうとか、いうのを盛り込んでやるという申請をして、2団体で構成する埴町地域創生事業推進協議会というのを10月に結成し、そちらの方に町からこの事業を委託しているという流れで実施しているところである。

デマンド交通については、おっしゃるとおり中山間地区の交通網が一番問題というか方法論として、議題に上がってくるころだと思っている。今後、考え方としては、タクシーで行けるところとタクシー以外のところへの、どのように区分を分けるかと次の公共交通活性化協議会等でも話し合いをしたいと思うが、タクシー業界も運転手が多くいるわけではないので、例えば矢塚・片貝へ行ってしまったら、帰ってくるまでの間、何台稼働できるのかという問題もあるので、近場のところはタクシーで、ある程度遠いところは今回のデマンド交通を実施するのが良いのではないかと。そのデマンド交通で実施するのも、持続できるような形、例えばタクシー会社・バス会社に委託する形もある。自治体が主体となり、NPO法人化をして運営をしていくケースもある。今回は巨額な先行投資をする形ではなく、6年度・田代地区でデマンド交通をやっているが、軽自動車を玄関口からドア to ドアで運行するというので、非常に好評であった。買い物をして、重い荷物を持って、道から自宅まで帰るのは困難だというような話もあるので、当面先行投資が少ない役場の公用車を使って、運転手をお願いして、どのような組み合わせにするかを考えながら中山間地については、デマンド交通で予約を取って、お迎えに行くようなシステムをつくりたいと考え計画したところである。

菊地哲也委員：地域経済活性化だが、湯遊ランドのコンサルは多分何年前にやっているコンサルとは違うのか。

まち振興課長：今回初めて。

菊地哲也委員：とにかく、国から2,500万円持ってきて、かなりいい事業だということと認められたと思うが、指標は立っているようだが、より良い成果が出ることを願っていききたいと思う。答弁は不要。

吉田広明委員：17ページ・出産祝金事業。ということで、移住・定住促進に区分している出産祝金。どのような意味か。埴町の出生数が20人と予測しているのか、説明をお願いします。

まち振興課長：埴町からよそに移住をされては困るので、埴町に住んでもらいたい、いる人を応援したいというのが一つと、あと埴町に移住して住んでもらえれば、お子さんが生まれたときに、出産祝金を町から御祝いでお渡ししますというところで、移住定住事業の区分へ紐付けている。なお、来てすぐ祝金をお渡しするのではなく、1歳・3歳・5歳と分けて、できるだけ長い間埴町に住んでもらって、埴町に定着

をしていただければというふうに考えている事業である。

吉田克則委員：10 ページ・高齢者外出支援タクシーの助成事業。これについては、町長の選挙公約の中に書いてあったと思うが、この事業費に3年間同じ金額、この積算基礎は。平坦地の方もあれば、山間地に住んでいる方もいて、なかなかその交通に不便を感じている、そういう方もいるので、同一金額だと不公平感があるのかなと思うので、どのような積算基礎でこの計画がつけられているのかを尋ねる。

それともう一つ、宮田町長の選挙公約の中に、1人当たり2万円のエール券、公約として掲げて、計画の令和9年度までには記載がないが、なくていいものなのか、逆に計画に入れられないのか。

健康福祉課長：タクシー事業の積算根拠であるが、先ほどまち振興課長からもあったとおり、デマンド交通とか、一つの公共交通ですべてを解決することはなかなか難しいだろうというふうに考えている。そういった中で、デマンド交通とか、既存のバスとかそういうものを使って、いろいろなものを組み合わせて、交通弱者を救っていかうというふうに考えている。そういった意味で、タクシー事業は、おっしゃるとおり山間地と町内で、その同じ金額では不公平があるというふうに、これまでも言われてきたが、そういったいろいろなものの組み合わせで、補助をしていくというふうに考えて、タクシー事業については、サービスの公平性、どこに住んでいても同じ金額の補助を受けられるということ。そういった中で、1.5倍ということで、月々大体委託料が150万円として1年ということで委託料を積算している。1.5倍の理由としては、今タクシー料金の初乗りが大体580円ということで、独居の方を月々2.5回分でそれ以外の方は1.5回分ぐらい、とりあえず1回増やしてみようということで積算している。

まち振興課長：エール商品券であるが、計画をしているが実施時期が今定まっていなくて、振興計画には記載していないが、今政府で支援策の中に盛り込みがあるという可能性が高いので、いつでも実施できるように準備を進めている段階。振興計画にあえて9年度、8年度、7年度というような記載をすべき事項ではないため、今回の計画には載っていない。政府からのその支援策が発表されれば、すぐにでも、補正予算なりなんなりで対応しながら進めていきたいと考えているところである。

総務課長：財政の方から補足という形で。エール商品券の町長公約分だが、今年度、考えていきたいというふうには思っていたが、今、町長が、国に対してモノをいえる機会があるし、立場にもある。そういった意味で、国の方に会議のたびに、国に対して、地方の自由度の高い交付金の創設を求めて参ったところである。そういった努力をした後に、いくらかでもお金が入れば町財政にとっては助かるということで、そういうお願いをして、早期の予算化は見送ってきたところであるが、昨今の経済対策の内容を見ると、それほど額ではないですが、町長の要望してた話が若干予算化というか、閣議決定されてそういう形になってきたので、そちらの予算が通りましたら、町の予算と合わせて予算化して議会の方に諮っていききたいと考えているので、今年度予算もしくは今年度の繰越予算等で考えていくものとして、計画

には載ってないということでご理解いただければと思う。

吉田克則委員：振興計画の概算事業計画だが、(1)の方では財政状況の状況と見通しということで一般会計の方はいいのだが、概算事業計画の中には、事業区分として、上水道事業会計、下水道事業会計、会計区分が別箇に載っていて、一般会計だけの財政状況、あるいは財政見通し、これでは片手落ちになるのかなというふうに思っているが、特に上水道、下水道事業区分、その関係で、その辺は借入金もあるだろうし、借り入れた事業や、やることによって公債費っていうのも発生してくるかなりの金額を占めると思うのだが。概算事業計画についても、上下水道、その他にもあるかもしれないが、そういう財政見通しも含めた中での振興計画ということにしていった方がよろしいのかなと思うので、その辺を質問する。

総務課長：一般会計ベースでつくっているということでご理解いただけたらと思うが、特別会計・企業会計も含めて、一般会計の方でシミュレーションの中に入れているのは、いわゆる繰出金の部分をみている。特会及び企業会計についてはそれぞれの財源で、それぞれの会計をすべきものと考えて、そこを補填するのが一般会計と思っているので、その分は見ている。町財政としては、ある程度の見通しはつけて計上しているものである。特別会計・企業会計とは別会計ということ。ただ、上水道と下水道は目立つ事業があるため、こちらの方に記載しているというふうにご理解いただければと思う。

藤田一男委員：19 ページ・堆積土砂撤去等。町で行う事業なのか、それとも国県の事業に町の負担金を出す事業なのかお聞きする。

まち整備課長：緊急浚渫推進事業は、浚渫債、起債をお借りして、町の普通河川の方の土砂撤去とあと伐木処理ということで、本来であれば今年度までの事業期間だったが、来年度以降も実施されるということで、県の方からも事業要望も来ているので、来年度も要望して進めるということで今動いているところである。

藤田一男委員：どこを予定しているのか。

まち整備課長：今まで浚渫債は、天神川をはじめ 15 河川、普通河川の土砂撤去している。振興計画に載っている 2 河川については、現段階ではまだ場所は決まっていない。現地調査をして、必要なところからやっていければと思っているが、今主に考えているのは、片貝川と田代の方の天神川、こちらが若干土砂があるということで、そちらを優先的に進めようかということで動いている。

吉田克則委員：進め方について、議事進行上、質問は 3 回までである。今のやり方だと、全部質疑応答になってしまう。そういう理解で私はやっているが。一つ一つやっていたら、時間がなくなる。

委員長：委員長としては、質疑の回数だが、委員 1 人当たり同じ質問に対し 3 回以内を目安とするということで、始まる前に話をしているが。同じ質問ではないと理解をさせていただき、示したわけだが。解釈がちょっと違っているところがあるかもしれない。

(委員長の言うとおりの声あり)

藤田一男委員：道の駅の前の久慈川と川上川が合わさるところから土砂を取ったが、2メートル近く深く取っている。ただ川上川の場合だと表面だけである。それと次の年には草・葦は生えてくる、土砂は溜まってくるため、無駄に費用を使っているのではと思うくらいだが、少し川底を下げるくらいに土砂を取るようにしないと、1回の大雨で終わりになる。川底まで取るような計画をしてほしい。最低でも30センチくらいは、本当は1メートル掘ってもらえばいいのだが。

まち整備課長：道の駅の合流点、一級河川なので県になるが、県の方も漁協の関係があり通常川底までは取らない。大体水面までの掘削になっているところだと思う。川底まで取ろうとすると、事業費が多分相当膨大になるのではないかと思う。あと、当然漁協の関係、鮎の関係とかに影響することもある、なかなか一級河川の方は、水面から下まで下げるのはやっていない状況だと思う。普通河川の方は、そもそも川幅が狭いところを、土砂撤去ということで今までも進めてきており、普通河川については、ある程度川底まで取っているような状況もあるので、普通河川についてはある程度、川底を下げるような工夫をしながら施工していければと思っている。

吉田広明委員：18ページの11番目、西河内塩沢線の測量設計。今まで令和8年度に測量設計をするという話をたくさん聞いてきたが、なぜ1年繰り延べになったのか、地元の人たちは、これを見たらとなぜと思うところがあると思うが説明願う。

まち整備課長：1年確かに先送りということになったわけだが、町としては、社会資本整備総合交付金事業のなるべく財源のよい事業でやりたいということもあり、北野松岡線が令和8年度で完了の見込みで動いている。JRの負担金の関係で、9年度の前半にずれ込む可能性はあるが、8年でめどがつくということになっている。我々はそれが終わり次第、社総金を使って、西河内塩沢線の事業の方も、国庫補助を使ってやっていきたいということがあり、1年先送りという形になったところである。あとは他の事業の絡みもあり、その辺も含め、事業の内容を整理したところ、1年先送りさせていただいているような状況。

吉田広明委員：これはあくまでも測量設計の段階の話であり、工事を進めるということではないので、まだ令和7年度、来年から8年度の前半ぐらいまで予算獲得に動けば十分に測量の着手ができると思う。計画どおりぜひとも進めていただきたいと思う。

まち整備課長：来年度の振興計画を策定するにあたっては、その辺も含め、再度整備課関係の事業をもう1回精査した上で検討させていただければと思う。

鈴木元久委員：エアコンの件で14ページのエアコンは分かったが、25ページのエアコンの補助金50万円、これと14ページの補助金とか設置の関連は同じなのか伺う。

まち振興課長：25ページに記載の地域集会所エアコンというのは、所管がまち振興課でやっている21ヶ所の集会所のうち、使用頻度の高い投票所等に使われている集会所に、上限50万のエアコンの設置補助金を今回計画したということである。地区館・分館の方は、教育委員会が所管しているため、項目が分かれている。

鈴木元久委員：分かりました。管轄が違うということで。

(休憩という声あり)

委員長：他になければ。

下重義人委員：5 ページ・14 番、農地中間管理機構関連農地整備事業。板庭地区。20ヘクタール 20 町歩、今進めているわけだが、令和 9 年 4,000 万円ということで、この他の地区の方で手を挙げている方はいるのかお聞きする。

農林推進課長：今現在、県の計画の方に載っているのが板庭地区である。他の地区の方からは、要望等はまだないため計画には載っていない。

下重義人委員：18 ページ・5 番目、北野松岡線。事業が進んでいるわけだが、当初は 8 年度で終わると私は理解し、地元も含めてそういう話をしている。この振興計画の中では 9 年度にずれ込むってということだが、9 年度というと、令和 10 年の 3 月 31 日までも含めてそこまでずれ込むのか、地元において令和 8 年度で通りますよってことで話を進めているのでお聞きする。

まち整備課長：先ほどの説明の中で、JR の踏み切り負担金の関係で、9 年度にずれ込む可能性もあるということでお話したところだが、12 月定例会の追加議案で新踏切の工事負担金の締結協定の議案を上げる予定になっている。この協定の議案を上げるにあたって、JR と協議をしてきたところ、JR の踏切工事が令和 8 年度の酷暑期を外して発注になるので、10 月ごろ発注になる予定。そうすると、工事自体は 3 月までには終わるが、どうしても最後精算が伴う。その時の精算の関係で、日程的に 3 月の議会には精算の変更協定議案が間に合わないという話がされている。変更協定については、余裕を持って 6 月の議会に変更を上げてほしいという話もされている。あくまで JR にお金を払うのは、精算の関係で令和 9 年の 7 月・8 月ごろになる。工事費ではなくて負担金なので、負担金の分だけを、9 年度に補助金要望をして、9 年度の実績ということで、お金を支払う関係で 9 年にずれ込むということである。工事の方は、踏切の方はもう 3 月に多分できるということで伺っており、町の方の舗装工事も、8 年度で事業要望をして、現場の方は 3 月 31 日には終わるだろうということで今計画を立てている。それ以降、4 月中には速やかに供用開始をしたいと考えている。事業費の JR の方は前払い金がない。あくまで精算払いとなっている。9 年度の 4 月早々に開通する計画である。

委員長：他になければこれで質疑を終わる。

(なしという声あり)

委員長：これで質疑を終わる。これで埴町振興計画の説明及び質疑は終了する。

休憩する。

(説明員退席)

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。次に (3) 討議に移る。本計画案に意見のある方はいるか。意見がないので、これで討議を終わる。

次にまとめを行うが、委員会の意見はなかったもので、本計画は了解したということでご異議ないか。

(異議なしの声あり)

異議なしと認め、埜町振興計画は了解することとする。

なお、報告書の作成は委員長一任とさせていただきたいと思うが異議ないか。

(異議なしの声あり)

異議なしと認め、報告書は委員長において取りまとめする。

その他、委員の皆さんから何かあるか。

藤田一男委員：先ほど吉田克則委員から質疑の回数、全体で 3 回だろうという発言があった。昨年まで委員長であり、今回同じ方法で実施しているのに、なぜそのようなことを発言するのか不思議である。吉田克則委員に考えをお聞きしたい。

吉田克則委員：答えられません。

委員長：各自認識がずれている。

菊地哲也委員：私も質疑の 3 回ルールはどちらなのか疑問に思っていた。議員必携には「質疑者が数項目の質疑事項を取り上げ、3 回質疑する」とある。議運または全協において、この確認をした方がよい。

小林達信委員：以前全協において、1 項目につき 3 回までと統一している。それを踏襲した方がよい。委員長が言ったとおりである。制限したのでは質問が少なくなる。

吉田広明委員：委員長から、整理して一言述べてそれでよろしいのではないか。

委員長：今までの流れを再確認して整理し、全員協議会で報告させていただくこととよろしいか。

(異議なしの声あり)

委員長：これで議事を終了する。

副委員長による閉会。

埜町議会委員会条例の第 27 条の規定により署名する。

令和 年 月 日

予算決算常任委員会委員長